

酔うて祝融峰を下る（朱熹）

我來萬里駕長風 絶壑層雲許盪胸  
濁酒三杯豪氣發 朗吟飛下祝融峰

我來つて 万里 長風に 駕す

解説 朱熹が衡山の最高峰に登り、その帰りは酔いに任せて峰を駆け下りて来た事を詠った詩。

絶壑の 層雲 許く 胸を 盪かす

語釈 ※祝融峰 湖南省にある衡山の峰の名。七十二峰中の最高峰。  
※駕 乗る。 ※長風 どこまでも吹きわたる風。 ※絶壑 深い谷。  
※層雲 幾重にも重なった雲。 ※許 こんなにも。 ※盪 胸をゆすぶること。

濁酒 三杯 豪気 発す

通釈 私は長風に乗って、祝融峰までやって来た。深い谷にむらむらと

朗吟 飛び 下る 祝融峰

重なった雲が湧き起る風景は、私の胸を盛んにゆり動かす。にぎり酒を三杯飲むと、たちまち、豪快な気分が起こり、高らかに詩を吟じながら、飛ぶように祝融峰を下って来た。